

2. モデル事業の実施パターン

1) 大規模化

- 同法人内の訪問看護事業所の統合または1事業所内の大規模化
- 看護職員(常勤換算)10人以上、利用者数100人以上を目安
- 大規模化により経営・運営の効率化を図る

2) ネットワーク化

- 別法人の訪問看護事業所同士がネットワークを組んで、効率化のために一元化し、協働で実施
- 訪問看護関連業務の負担を軽減し、経営・運営の効率化を図る

3) IT化

- 請求業務、訪問看護業務記録や外部への情報提供書等について、IT化を適切に促進するために、センター化・外注も視野に入れ、書類作成業務の効率化や情報利活用の推進を図る

訪問看護事業所の機能集約及び基盤強化促進に関する調査研究事業(山田班、川村班)

訪問看護業務記録のIT化促進事業

訪問看護の機能集約及び基盤強化促進

3. モデル事業の各パターン

1) 大規模化

■現在の課題

訪問看護事業所は、職員平均が4.2人^{※1}と小規模事業所が多く、管理・事務業務や訪問看護サービス提供にかかる職員負担が大きい。

■モデル事業の内容

同一法人内の訪問看護事業所を統合または1事業所内の大規模化とする(看護職員常勤換算10人以上、利用者数100人以上を目安とする)。統合のプロセス・方法や、統合前後の収支状況・利用者数・職員負担等の変化を明らかにする。

※1 「平成18年厚生労働省介護サービス施設・事業所調査」より 訪問看護事業所の1事業所当たり看護職員常勤換算数